

令和8年 第10回八雲町議会全員協議会会議録

令和8年4月23日 議員控室

○報告事項

(1) 財政健全化（事務事業の見直し）の取り組みについて（財務課）

○出席議員（13名）

議長 大久保 建 一 君
赤 井 睦 美 君
横 田 喜世志 君
関 口 正 博 君
安 藤 辰 行 君
水 野 博 美 君
小 西 雄 一 君

副議長 宮 本 雅 晴 君
三 澤 公 雄 君
黒 島 竹 満 君
倉 地 清 子 君
斎 藤 実 君
寺 田 広 樹 君

○欠席議員（1名）

牧 野 仁 君

○出席説明員（6名）

町長 萬 谷 俊 美 君
総務課長 川 崎 芳 則 君
財務課長補佐 南 川 達 哉 君

副町長 竹 内 友 身 君
財務課長 井 口 貴 光 君
財務係長 松 田 教 子 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

〔開会 午前9時30分〕

◎ 開会・議長挨拶

○議長（大久保建一君） 皆さん、おはようございます。

時間前ですけれども、皆さんお揃いなので、始めたいと思います。全員協議会開催前に八雲総合病院の阿部島院長にお越しいただいておりますので、ご挨拶をいただきたいと思います。

◎ 協議事項

【総合病院職員入室】

○総合病院事務長（福原光一君） 議長、総合病院事務長。

○議長（大久保建一君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） おはようございます。4月1日、八雲総合病院病院長に就任をした、阿部島滋樹院長より議会へ就任のご報告をいたします。

○八雲総合病院院長（阿部島滋樹君） 議長、八雲総合病院院長。

○議長（大久保建一君） 院長、お願いします。

○八雲総合病院院長（阿部島滋樹君） おはようございます。4月1日より前任の石田院長より引継まして、八雲総合病院の院長を拝命いたしました、阿部島と申します。

今朝の道新の報道にもあったとおり、今地域医療は非常に厳しい状態で、八雲総合病院もその例に漏れず、なかなか厳しい状態でやっておりますが、誠心誠意、町民、あるいは近隣の住民のためにより良い医療を、そして病院を守るという使命を持って、誠心誠意働かせていただきます。

どうか、これまで以上のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

○議長（大久保建一君） それでは、議員の皆さんは院長にお聞きしたいことはたくさんあると思いますけれども、院長はこれから診察診療のためすぐに退席されるということになりますので、ご了承をお願いいたします。

阿部島院長、ご多忙のところお越しいただきまして、誠にありがとうございました。

【総合病院職員退室】

○議長（大久保建一君） それでは、改めまして、令和8年第10回全員委員会を開会いたします。

議長挨拶は割愛させていただきたいと思います。

◎報告事項

【総務課職員・財務課職員入室】

○議長（大久保建一君） 報告事項1番、財政健全化の取り組みについてお願いいたします。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保建一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） おはようございます。本日は、お集まりいただき誠にありがとうございます。

八雲町の財政運営につきましては、3月定例会で一般会計と病院会計の財政資産をご説明しておりますけれども、これまで好調だったふるさと納税に支えられて、各種行政サービスの充実から産

業振興など拡大路線で進めてきておりましたが、令和7年度には、ふるさと納税額が大幅に減少しました。

このままでは、八雲町の財政が数年で基金が底をつくという状況になりかねなく、一般会計をはじめとする企業会計など、町全体の財政運営を見直さなければいけないと考えているところでございます。

つきましては、財政健全化に向けた事務事業の見直しを進めるため、先般、職員説明会を開催し、来年度予算の編成に向けた方針を示したところでございます。その後、財政課長より財政の状況、事務事業の見直し方針をご説明申し上げますので、よろしくお願い申し上げますとともに、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○財務課長補佐（南川達哉君） 議長、財務課長補佐。

○議長（大久保建一君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（南川達哉君） 私のほうから財政健全化の取り組みについて説明したいと思えます。まず、1ページをご覧ください。

現状といたしまして、令和8年度当初予算額は163億8千万円であり、合併後、2番目に大きい予算規模となっております。

また、基金からの繰り入れは、42億8,500万円となっております。当初予算額と繰入金の推移を表にまとめておりますけれども、表の見方といたしまして、左側の軸が当初予算額、右側の軸が繰入金となっております。

表を見ますと、やはり予算規模は増加傾向であり、合わせて繰入金も増加傾向であるということがわかります。予算規模が増加傾向にあるのは、昨今の物価高騰による燃料及び資材等の増、人件費の増、社会保障費の自然増のほか、ふるさと応援寄付金の向上に伴う事業拡大が要因であると分析しているところでございます。

3月5日の開催の全員協議会でご説明いたしました一般会計財政資産、令和8年度3月版では、令和9年度から38億3,400万円、41億9,900万円、52億8,200万円と、各年度収支不足が発生し、その収支不足を基金からの繰り入れにて対応するというにしておりますけれども、その基金も、令和10年度末で、34億9,400万円となる見込みであり、令和11年度当初予算が編成できない状況となっております。こういった状況を踏まえますと、現在の財政運営は、基金に依存したものであり、令和11年度の予算編成が不可能な状態は、持続可能性が失われていることを意味しております。

また、ふるさと応援寄付金という変動の激しい財源を前提とした事業拡大は、寄付金が減少すれば一気に財政を圧迫するリスクとなり、このままでは真に必要な事業が継続できなくなる。住民サービスが低下する。公共施設を閉鎖しなければならない、という状況になりかねません。

将来を担う世代に負担を残すのではなく、いつまでも安心して暮らせる町であるために、財政健全化に取り組み、将来にわたって持続可能な行財政運営を推進することが必要であると考え、令和8年度から事務事業の見直しを実施することといたしました。

2ページ目をご覧願いたいと思います。事務事業見直しの方針ですけれども、目標といたしまして、1つ目は、毎年度10億円程度の一般財源の削減を行い、予算規模を120億円から130億円程度を目指します。なぜ、120億円から130億円程度なのかといいますと、人口規模が同じである森町

や近隣の七飯町の予算規模が 120 億円程度であるということや、ふるさと応援寄付金による事業拡大する前の予算規模程度としたいという考えでございます。

目標の 2 つ目は、予算編成において毎年度 10 億から 15 億円程度の繰入金を目指します。これは、令和 8 年度末の取崩型基金の残高が約 105 億円と見込んでいますので、10 年程度は財政運営を維持できるであろうという考えであります。

目標の 3 つ目は、ふるさと応援寄附金への依存からの脱却を目指します。これは、年々ふるさと納税制度の基準が厳しくなっている状況を考えれば、国の更なる基準の変更も考えられ、今後の見通しはさらに厳しくなることを想定しての考えであります。

では、この目標の達成に向けてどのように今後進めていくかと言いますと、まず、職員説明会を開催いたします。先ほど町長からもご報告がありましており、職員説明会は 4 月 17 日金曜日にすでに実施済みであり、午前と午後の 2 回に分け実施いたしました。

説明会開催の目的は、このままでは数年度に基金が枯渇し、行政運営ができなくなるという現状の理解と危機感を持ってもらうこと。さらに、膨張した財政をスリム化するため、大胆な事業の見直しを行うことへの理解を得るために開催してございます。

次に、町民への周知でございます。町民への周知は町広報誌を予定しており、内容としては令和 9 年度以降の歳入歳出見込、収支不足額、基金の残高見込みと事務事業見直し方針の掲載を予定しております。

次に、事務事業の見直しであります。

1 つ目としては、例年ですと概算要求を経て当初予算要求という流れで予算編成を行っておりますが、今年度は概算要求の前に事務事業の見直しに関する町長ヒアリングを実施します。具体的には、昨年度提出してもらいました概算要求の継続事業について、事業費を最大限削減するとした場合、どのような内容でどれだけ削減できるかを所管課に検討してもらい、その提案を基に町長ヒアリングを実施しようというものでございます。

2 つ目として、新規のソフト事業及びハード事業について、法令で義務付けられた事業か、町民又は対象範囲の何割が恩恵を受けるのか、他の自治体と比較して過剰ではないかという視点で整理していただき、その上で概算要求する場合は原則、令和 13 年度以降の要求をお願いしようと考えております。

ただし、地域の課題解決など政策的・政治的判断により早期に実施が必要な場合は事前に町長協議を行い、厳選集中投資を基本に判断しようと考えております。

3 つ目として、当初予算要求における各節の算出方法について、具体的な指示事項は現段階では未定であります。前年度より厳しい内容で算出内容を指示したいというふうに考えております。この事務事業見直しは、一般会計だけではなく特別会計、企業会計を含めた全会計で実施いたします。

最後になりますが、このままの予算規模で進み、毎年度多額の基金を繰入しなければならない状況が続く、最終的に基金が枯渇すれば、災害などの緊急事態に対応できないばかりか、財政再生団体への転落、自治体経営の破綻も現実味を帯びてくると危機感を持っております。

そのようなことにならないよう、事務事業見直しの取組みを進めていきたいと考えております。

以上、簡単でありますけれども、説明とさせていただきますと思います。

○議長（大久保建一君） 説明が終わりました。これより質疑を受け付けます。質疑ある方は挙手をお願いします。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） この財政資産表の見方について、ちょっと教えていただきたいんですけども、3月定例会において令和8年度予算ありましたけれども、その数字とはまたちょっと異なるものがある。前回の規模として、先ほど164億円ということでしたけれども、この財政試算表でいけば、180ですよ。これはちょっとどういうことなのでしょう。

○財務課長補佐（南川達哉君） 議長、財務課長補佐。

○議長（大久保建一君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（南川達哉君） 3月にお示ししました財政資産につきましては、当初予算のほかには補正予定額と繰り越し明許費というものを含めた金額で報告させていただいております。

○議員（関口正博君） わかりました。はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） もう一点教えてください。令和7年度分の財政試算ですけれども、これは、決算見込み額においても数字ということによろしいでしょうか。

○財務課長補佐（南川達哉君） 議長、財務課長補佐。

○議長（大久保建一君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（南川達哉君） そのとおりでございます。決算見込みを勘案しての報告となっております。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 令和7年度の当初予算では、基金からの繰り入れが31億円か2億。さらには、ふるさと応援寄付金を14億見込んでたと思います。今回の決算見込みにおいては、繰入金というものは、13億3,700万円でもいいですか。

これは、財源構成がどうなってこのような金額になっているということなのでしょうかね。

○財務課長補佐（南川達哉君） 議長、財務課長補佐。

○議長（大久保建一君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（南川達哉君） こちらは、7年の決算の見込みを踏まえまして、やはり執行残山等が見込めるということで、基金の圧縮を図りまして、ふるさと応援基金を約11億程度まで圧縮をさせていただいております。

なので、7年度の決算見込みとして繰り入れ金としては、13億を予定しているというところでございます。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） そのような考え方からすれば、今年度の予算42億もの基金の繰り入れ、これが、源の振替等によって、どの程度圧縮される予定見込みであると考えられますか。

○財務課長（井口貴光君） 議長、財務課長。

○議長（大久保建一君） 財務課長。

○財務課長（井口貴光君） 令和8年度の決算見込みでありますけれども、まだ年度がスタートしたばかりということで予算の執行もまだ全然されていない状況にある中で、なかなかこの決算見込みというのを出すのが非常に困難だという状況でございます。

もう少し月日を経ちますと、決算見込みというのが見えてくると思うんですけれども、今現状ではいくらかという決算見込みをお示しすることがちょっとできないということをご理解していただきたいと思います。

それと、今現在はっきりと分かっている部分については、当初予算の中でウイスキー事業、こちらに対して6億900万円の投資予算を組んでございましたけれども、先般議会のほうでその部分を減額補正をさせていただいております。ですので、163億8千万円から、まずは6億900万円は減額となっているという、今現在状況でございます。

今後、補正予算に関しては、必要な時期に予算を補正していくということになれば、徐々に必要な経費を補正していくことになっていると思いますけれども、現段階では、はっきりとした決算見込みというのは、ちょっとお示しできないという部分で、ご理解していただきたいと思います。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） ありがとうございます。そしたら、他についてちょっと教えてください。

令和9年度からの普通建設事業ですけれども、令和9年度が14億9,600万円、令和10年度が37億500万円、令和11年度が65億7,900万円というのは、庁舎の問題もあると思うんですけれども、さらには、令和12年度に32億7,200万円。町の総合計画が9年までしか出てないので、それ以降のことっていうのはちょっとわからないんですけれども、この普通建設事業で予定されている金額、根拠というものを教えていただければと思います。

○財務課長補佐（南川達哉君） 議長、財務課長補佐。

○議長（大久保建一君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（南川達哉君） 普通建設事業でございますけれども、令和10年度、11年度につきましては、議員おっしゃるとおり、新庁舎の整備というものが大きなものになってございます。

12年度につきましては、今の現段階の計画でございますけれども、落部の消防庁舎がこの時期に予定をしているというのもあります。

また、新八雲斎場の建設についても、この時期に行う予定でいるということを加味しての、こちらの試算となっております。以上でございます。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 令和9年度からの資産が基金の繰り入れというのは、実質見ずに●●予算というものを組んでいる。それで、ダイレクトにこれらの建設事業というものがマイナスになっているという意味での財政資産であるということで、これは見方としてですけれども、これらというのは、庁舎に関しても合併特例債が使われたりだとかということを財源の構成が行われる予定でしょうから斎場とかにしてもそうですし、それらのことが令和8年でも、今の現時点では分からないよということで、このようなかたちで資産を載せているということは理解します。

けれども、実際にこれらの試算表で見るマイナスというのは、普通建設事業に関わるマイナスというものは、非常に大きいということが言えるかと思うんですよね。そのほかに、当然扶助費で

あるとか人権者だとかというのは自然に上がっていくものですから、この普通建設事業の取り扱い如何によって、この八雲町の財政資産というものは、当然変わってくるという理解でよろしいでしょうか。

○財務課長（井口貴光君） 議長、財務課長。

○議長（大久保健一君） 財務課長。

○財務課長（井口貴光君） 財政資産の見方に関しては、先ほど関口議員のほうから、普通建設事業がこの収支不足に大きく影響しているだろうという、そういった見方をされてございますけれども、そういうことではなくてですね。

八雲町の場合は、交付税措置のある有利な起債、過疎債だとか、●●債、そういったものを活用できるということであれば、普通建設事業にそちらを当てることによって、町の持ち出しがある程度圧縮することができるという考え方を持っています。

ですので、全体的なことを言えば、普通建設事業がその収支を隠せるような感じだという捉え方ではなくて、先ほど補佐のほうからも申したとおり、全体的な事業の拡大、それから人件費の増であったり、扶助費の自然増、そういった部分が徐々に徐々に増加してきてそれが現在こういった状況になっているということで、まずご理解をしていただきたいと。

あくまでも普通建設事業については、有利な記載を追求するとそういった考え方は従前と変わりませんので、そちらの部分は当然追求しながら、財源調整も図っていきたいと、そういうことで考えてございますので、よろしくお願いいたします。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 当然、無駄なものをしっかり見直していくという考え方っていうのは、どんな状況であっても必要なものであろうというふうに思っています。

それで、今回の財政健全化の取り組み等についてなんですけれども、まずは第一に削減というのがまだ来てしまう。このことによって、本来であれば僕は何を残すかということを前提に考えるのがいいので、持続可能性、この将来の可能性というものを書いてありますけれども。

削減ありきのこのようなやり方というものがこれから職員をはじめ、町民の皆様もそうですけれども、逆にそこに町の考え方との乖離がどうしても生まれてしまうんじゃないかな。だから、希望的観測によった財政資産というものをもっとしっかりと追求すべきじゃないのかな。

もちろん厳しいのは、これからどの自治体もそうですからね。財政の引き締めというのは、当然やっていかなきゃならないと思うんですけれども、あまりにも財政被動になりすぎている。これは、新庁舎の部分もそうですけど、これは持続可能性を追求したものではないですよ。はっきり言えば、単なるコストカットだと思います。

町長ね、その辺について、これまでのふるさと応援寄付金についてのことも書いてますけれども、これも目一杯これまで八雲町は恩恵を受けてきました。町長の言葉でもありましたけれども。これをいかにどうするかをまず考えるということと、これに代わる財源なんてないんですから、それに代わる財源がないから、そもそもいろいろなものを緊縮していかなきゃならないという考え方でしょう。

これは、あまりにもこれまでふるさと応援寄付金に関わってきた事業者には失礼なものであらうと。これをいかにして制度として町として理解して、いくらかでも全国の皆様に PR していくかと

ということが大事ではないのかなという部分と、これまでと変わってきた部分というのは、先ほど阿部島院長挨拶いただきましたけれども、病院事業、これをいかにするか。

これを全庁的にいかにして取り組んでいくか、そこに僕は尽きると思ってるんですよ。それを、緊縮財政によって、これからのもちろん引き締めているってことはいいですけども、それによってのみ、町の持続可能性を図るというやり方は、僕はあまりにも職員をはじめ、町民の皆様の士気を下げることになるんじゃないのかなというふうに思いますけど、そのへんは町長どのように考えますか。

○財務課長（井口貴光君） 議長、財務課長。

○議長（大久保建一君） 財務課長。

○財務課長（井口貴光君） ただいま削減ありきではないかという、そういったご指摘も関口議員のほうからありましたけれども、まずは現状を見ますと、歳出がだんだん膨れ上がってきているという状況であれば、その不足分を基金から多額の繰り入れでもって補うという、そういった極めて危険な状況にあるという、そういった現状を私たちは捉えてございます。

先ほども補佐のから説明させていただきましたけれども、そういった状況であれば、災害のあった時の対応だとか、あるいは最近では、社会情勢がいろいろと騒がしくなっておりますので、そういった部分にも対応できなくなってしまう。このまま歳出を圧縮、あるいは歳入を確保できなければ、次の世代に負担を回すと、そういった状況になりかねないというふうに捉えてございます。

まず、現状を改善する方法としては、まずは、予算規模のスリム化というのが第一だと。それと、基金からの繰入金の圧縮、これがやはり第一だろうというふうに捉えてございます。

それで、事務事業の見直しに関しては、削減のみを目的とすることではなくて、そういった社会情勢が変化している中で、過去に必要であった事業、そういった事業を今本当に必要なかどうか、そういった部分を判断しながら検証して、本当に必要な事業を再配分すると、そういった目的もございします。

それから合わせて、事業が集中して特定の年度に事業規模が上がると、そういった部分。それも、やはり平準化をしていかなければならない。それと、新規事業については、これは全くやらないという考え方ではなくて、町長の考え方でもありますけれども、厳選集中投資ということで状況を判断しながら、必要な事業については、そこに投資をするという町長の考え方もございますので、そういった部分を目的としてございますので、削減ありきという部分ではないという部分をぜひご理解にさせていただきたいなと思っております。

それから、ふるさと納税に関してですけれども、確かにふるさと納税はこれまで好調でありましたけれども、昨今の返礼品事情等もありまして大幅に減少になっているという状況は、皆様もご理解をいただいていると思っております。

給付額増に向けたPR、あるいは宣伝も必要だという状況は、重々町のほうでも承知しておりますけれども、これについては、制度を見ますと、本来であれば、自治体を応援するという制度なんです。最近では、返礼品競争。要は、返礼品によって寄付額が大きく増減していると。自治体によっても大幅に偏っているという状況を考えれば、やはりその返礼品事情というのが大きく影響してくるという状況にございます。

ですので、町としては、今現状を捉えながら、ふるさと応援寄付金やふるさと納税の募集事務に最大限の努力を図って取り組んでいきますけれども、そういった状況もありますので、これはなかなか厳しいのかなという状況も捉えてございます。

ですので、歳入は、先ほど関口議員がおっしゃったようになかなか厳しい部分はあると思いますので、そのバランスをとるためにも今お話しさせていただいたような方向で、財政の健全化を図っていきたいという状況をご理解をしていただきたいと思いますと思っております。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 164 億の予算に対して、だいたい 15%徴税収入の少なさっていうのは、この八雲町の弱さです。それは、理解いたします。それで、ふるさと応援寄付金で何を行ってきたか。これは、将来の徴税収入につながる事業というものを行ってきたという側面もこれまでの町政ではあるかと思えます。未来への投資というものを進めてきた。

そして、さらには人口減少。これは田舎であれば、どこの自治体もぶつかっているところでございますけど、そういうものになんとか歯止めをかけたいという中で、これまでの町政は、産業の創出というものに多少偏った町政運営であったということはあったと思いますけれども、当然ふるさと応援給付金があったからこそ、そのような町政もできてきた。

さらには、目を向けてきた。これからそれをどのように維持していきながら、町のためになっていく事業にしていくか。そのためには、ある程度投資というものは当然必要なわけです。引き締めて、引き締めて、引き締めた時には、何も生み出すものがなくなったと言ったら、これもまたおかしい話で、やっぱりバランスっていうのは、常々必要だと僕は思うんですよ。

今、現状の段階というものは、あまりにも財政主導になりすぎていて、僕はそのままの今の行政側のこの意見に関しては、全く賛成できません。残念ながら。これは、他の議員の皆様の意見も聞いていただきたいと思います。

○議長（大久保建一君） 他ございますか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 今の議論をととても興味深く聞いていました。見直し方針の説明の中で、あれと思ったんですけども、近隣の森町、七飯町という名前を出してね、それと比較したときに、八雲はちょっと財政規模が大きいんだよという話でしたけど、森と七飯を八雲町と比べるということ、そのレベルを目標にということであれば、病院事業はね、特別会計、企業会計の区別なくってという言葉を考えてときに病院事業は手放すってことを視野に入れてるって考えてもいいでしょうか。

それくらい考えるんですよ。僕たちずっと、川代町長時代の財政健全化を経験してますけど、森と七飯と比べたときに八雲の財政が大きいのは、病院事業があるからだっていうことをね、ある意味胸を張りながら言ったことがあるんですけど、森と七飯レベルのラインでいいって言ったら、より事業を見直すってことかなっていうことをまずお聞きしたいです。

○財務課長（井口貴光君） 議長、財務課長。

○議長（大久保建一君） 財務課長。

○財務課長（井口貴光君） まず、予算規模に関しての比較ということで、これは各自治体で新年度予算等をホームページで公表しておりますので、そういった数字をちょっと参考にさせていただいて説明させてもらいましたけれども。

まず人口規模については、森町と八雲町はだいたい同じような規模だという部分。それと、病院に関しては、八雲の場合は、2つの病院があるということから考えれば、令和8年度で繰り出し金が18億弱、17億円の繰り出し金がありますので、そういった部分からすれば、八雲町は予算規模としては多少大きいのかなという部分は、そのような理解も財政当局としてはしている状況でございます。

ただ、一般会計だけをそういった健全化したとしても、他の会計を合わせてしていかなければ、繰り出し金という部分については、一般会計から各会計に支出しておりますので、その部分も合わせて効率化を図っていかなければならないという状況にありますので、会計全体としては、そのような取り組みをしていきたいというふうに考えてございます。

それと、病院事業に関しては、今三澤議員のほうから、病院の手放しという話はしてございますけれども、現在そのような考え方は持ってございません。

ですので、その部分については、会計の効率化という部分に、まず最初に取り組んでいく必要があるのではないかなというふうには考えてございます。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 議長、今日の進め方はここで十分議論するの。それとも本会議をある程度目標において提言するの。

○議長（大久保建一君） これについては、今すぐ何か予算が上程されるとか、そういうことではないので、本会議を経るということではなくて、こういう考え方を町側がしていくということをまず報告したいという場だと、私は判断してますけど、違いますか。

○議員（三澤公雄君） じゃあ、最低限の質問だけで抑えます。今のことは、課長の答えに対しての再質問はしませんけど。

○議長（大久保建一君） だから、大きな考え方に関して、疑問のある方は質問していただきたい。

○議員（三澤公雄君） じゃあ、大きなことでもう1つ。

先週、職員に説明したということは伝えていますが、(2)で町民への周知は町広報だというのが、これは萬谷町長の選挙公約で掲げた、町民主役の町づくりっていうことを考えたときに、このスタートライン、萬谷町政は、財政の健全化に取り組むということを町民と一緒にまず理解してやってもらうことであれば、これは町広報の説明じゃなくて、こここそ、町民の前に立つての説明会をしなきゃいけないんじゃないのかなと思うんですよ。いろいろ言われるのは、想像できますよ。

だけど、向かっていくという姿勢を示すためにもここは町広報ではなくて、ここも職員説明会と同じように向き合ってね、説明会を開くっていう方針でないと、看板に偽りってことになるんじゃないんですか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保建一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今、三澤議員のおっしゃった町民への周知の仕方として、広報ではなく説明会を開催すべきだというお話の件でございますけれども、当然、私も三澤議員のおっしゃるとおり、町民主体の町づくりということで、説明責任ということも公約の中でお話ししております。そういった観点からすれば、町民説明会を開いてしっかり説明すべきだというのはそのとおりだというふうに思っています。

ただ、今現在の段階では、方針を示したのであって、具体的に個々の部分が見えないと、町民にとってもわかりづらいだろうなというふうに思っていますので、一定程度、予算要求に向かって、各課がどういった事業の精査をして、どういう事業をどうしたいという考えが出てきた段階で説明会を開催したほうが効率的であって、町民にとってもわかりやすいだろうというふうに思っていますので、とりあえず現段階では、方針を町民に周知をするという考え方でおります。

ですので、詳細については、具体的に住民サービスが低下するようなものは、説明しなければダメだなというふうに思っております。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） ここについてはちょっと1つだけ、方針を示すからこそ、町民の前に立って、要するに総論賛成っていうかたちのほうがまとめやすいと思うんですよね。これが各論に入ったら、総論賛成だった人たちも我が身に降りかかった時には反対に回るわけで。

だから、総論っていう方針を示す時だからこそ、僕はね、萬谷町長のことを恩馬鹿って言うんですよ。総論づくりのところだからこそ、前面に立っていかないと。

そして、その時に大きな合意がもし得られるなら、あの時皆さん賛成したじゃないですかって言って各論の時に話できるんです。

これは、各論を作ってからだったら、聞いてねえよっていう人たちに対してどうするんですかっていう思いがあるんでね。僕は、方針を示す時期であるからこそ、前に立つべきだと強く思います。僕はここまでにします。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今の総論、各論の話ですけれども、私はやっぱり総論で町民に説明しておいて、承諾を得たからって言って、各論の部分で反対したときに話が違いうだろうというふうに来るほうが反響として大きいのかなというふうに思っています。

ですので、やっぱり具体的な事業として、こうしますよっていうことを説明したほうが分かりやすいし、各論で反対されたものができるかという部分もありますので、そこはやっぱり住民と向き合っていかなければならない部分だというふうに思いますので、反対、大きなものをやめていくということにはならないなというふうには、現時点では思っていますので、そういったかたちで進めていきたいと思っています。

○議長（大久保健一君） 他。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） 今の説明は、理解はしました。その縮小していかなきゃならない部分を見直していくっていうのも必要なものに関してなので、それは理解します。

それで、ふるさと納税のことに関しても、これから返礼品のことについての手続きが複雑化して
いって、また厳しい状態でそれをどうやって維持していくかというのも難しいというのも理解しま
した。

私が言いたいのは、昨年も大事なんですけれども、ちょっと利益を得るっていうかたちの中で、こ
の場で言うことかどうかわからないんですけれども、例えば、今クマの木彫りで百周年があつて、
町外、道外からの外国人の方も多くいらっしゃってますし、資料館の利用料とかを今全部無料だけ
れども、ちょっと有料化していくとか、そういう公的施設のものの有料化っていうのも視野に入れ
てもらおうというのは、どういうふうにとらえてるんですけれども、町民からもよく聞きますけれども、
どのように考えますか、その辺について。

○財務課長（井口貴光君） 議長、財務課長。

○議長（大久保建一君） 財務課長。

○財務課長（井口貴光君） 使用料、手数料、歳入の部分ですけれども、確かに倉地議員おっしゃ
るように、歳入の確保というのも重要だと思ってございます。それで、そういった資料館と公共施
設だったり、いろんなサービスの使用料、手数料、ここの見直しについても検討をしております。

ただ、財政状況が厳しいからといって、受益者負担を使用料、手数料を上げるということではな
くて、受益者負担の適正化、それから公平性の確保であったり、あるいは物価高騰の影響。それと
事務経費、いわゆる人件費、そういった部分の管理コストの対応をするために見直しを行うという。
要は、財政が厳しいからということではないという部分で、まずは1つ理解していただきたいと思
っております。

それと、見直しに関しては、作業に期間を要するということで、作業をした後にパブリックコメ
ントをして、町民の皆さんにそれをお示しして、そして、それが問題なければ条例改正、そういつ
た手続きに入っていきますので、そういうスケジュールを考慮すれば、令和9年度にそういった作
業をして、令和10年度からの適用というようなスケジュール的な部分を今現在、内部では検討して
いるという状況でございます。

例えば、今すぐ来年度からという部分については、スケジュール的にはちょっとなかなか厳しい
のかな、というふうに思っております。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保建一君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） すみません。ちょっと私の言葉が足りなかったなと思うんですけど、受益
者負担をっていうふうには思っていないで、町外、道外、町以外の方のこととしてお話をさせてい
たので。

○議長（大久保建一君） 他ございますか。

○議員（斎藤 實君） はい。

○議長（大久保建一君） 斎藤議員。

○議員（斎藤 實君） ふるさと納税の金額が少なくなったということで、いずれは財政の見直し
しなきゃならないんだろうなという思いは、ここ去年の暮れあたりからですね、私考えておまし
た。

それで、ふるさと納税の担当の課長さんともいろいろお話しいたしました。私としては、今まで
一生懸命頑張ってくれた業者の皆さんに町長が承継訪問してきちっと礼を言いながら、これからの

対応、さらによりしく願います、というようなことをお願いしているのかと言ったら、それもやっております、ということでもあります。

ただ、減らすだけでなく、今これはわかりますよ。考え方としては。やはりこれからふるさと納税はどういうかたちで、それじゃあもう一回仕切り直しして取り組むのかというようなことも、見直すだけでなく積極的にそちらの方の取り組みも必要だと思うんですよ。

それと、もう1つ大事なことは、町政を進める中で町民の町づくりに対するそちらのほうまで交代するような財政運営では私はダメだと思うんです。そちらのほうは、積極的にやはりやっていく必要っていうのはあると思うんですよ。

ですから、そういう考え方もこれはこれでわかりますけれども、さらに●●として、職員の皆さんに今までの進め方プラス何をしたらいいのかと、職員のさらに質の高い町づくりができるのかと、そういうことも合わせて考えていく必要があると思うんですね。

ですから、そういう点が今のところ見えておりませんので、これはこれで了解しますけれども、そちらのほうもやはり早め早めに考え方をまとめながらやってほしいものと、このように私は要望したいと思います。

○議長（大久保建一君） 町の要望について、何かございますか。

○議員（斎藤 實君） もし町長の考え方があるのであれば。

○議長（大久保建一君） 要望について何かありますか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保建一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今、斎藤議員からありました、ふるさと納税につきましては、斎藤議員もご存知のとおりだということで、事業者に関しては、これまで一番貢献していただいた事業者にも私ご挨拶に行ってますし、お願いもしておりますけれども、皆さんご存知のとおりの実情だということで、なかなか返礼品の取り組みをしていただけない状況にあるということでございます。

あと、減らすばかりではなくということでの町民の町づくりを損ねるような、後退するような考え方の減額はやめてほしいというお話しだというふうに思いますけれども、それはそのとおりであって、町民が町づくりの意欲を損ねるような、そういったあらゆる団体の取り組みだとか、そういったものに対する支援については、事業を見ながらそこは損ねないようなかたちで支援をする。継続していく。

また、必要なものは、そこはプラスしていくということは、必要なことであるというふうに思っていますし、将来に向けての投資は当然しなきゃいけないことでありますので、削減するばかりではなくて、やっぱり投資の必要な将来のまちづくりに必要なものはやっていかなければならないものはやっていくと考えておりますので、公共事業についても同じです。

有利な起債を使いながら、事業費としては標準化しながらやっていくことによって、逆に言えば、7割バックしますし、その時の歳入としては、充当率が100%過疎である100%ですから、借金で全部賄えるわけですから、ある意味そんなに単年度で一般財源を必要としないというところがありますので、そこは標準化の中で、要は、起債額の残高を平準化していくというのが当たり前の考え方です。起債残高がありますので、償還に見合うだけの借金をしていくということになるのかというふうに思っていますので、そういう考え方で取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議員（斎藤 實君） それともう1つ。

○議長（大久保建一君） 斎藤議員。

○議員（斎藤 實君） 国の政策の中で、あれですよ。地方創生の関係でいろんな補助メニューがあるんですけども、使えるものと使えないものがあるっていう。担当者からも僕直接行って聞いてるんですけども、やはり使える方法を考えながら、今やっている事業でもそういうものを活用しながら予算編成できないのか。そういう点も追求してほしいなというふうに思いますので、これは要望をしておきます。

○議長（大久保建一君） 他、ございますでしょうか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保建一君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 各論で申し訳ないんですけども。先ほどから、必要なところには投資するという言葉と、それから2ページに書かれている町民または対象範囲が何割が恩恵を受けるのかというこの言葉がすごく気になって、その判断は、やっぱり私は前の財政を縮小するっていう時も、私、町民と町との考え方の幅が非常にあったんですね。違いが。

だから、必要とこっていうその必要性を本当に町民と共有してくれないと、パブリックコメントで意見を聞いて、それでパブリックコメントって出して答えが来るだけで話し合うわけじゃないので、私あれは本当にただの形式だなんてしか思っていないんですけども。

もっともっと総論ではなく、各論で話し合い、報告しますよってなった時に、本気でなんか話し合っしてほしいなと思います。ちっちゃい例で言うと、国際交流が全く予算ゼロになってしまっただけ、それを復活しようと思っても全くダメでした、そこは。

でも、国際交流ってやっぱりよその町も見ててそうだけど、子供たちにとっては、非常に良い経験となるもので、それに代わる方法をこういうふうにしましょうっていう提案もなく、もうバシッとダメはダメっていうかたちだったんですね。その当時は。

だから、必要な事業に投資するという、その必要って判断するところをもっと町民としっかり話し合っ、町民と共に本当に共同のまちづくりでやっていってほしいなと思うし、やっぱり収入がなければ支出を抑えるというのはどの家庭も同じなので、そこは町民も理解できますけれども、抑える部分をしっかり話し合っ、いってほしいと思います。要望です。

○議長（大久保建一君） その要望について、特別ありますか、答弁。なければ、ないでもいいですけども。いいですか。

ほか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） この町民説明の部分、改めてお伺いさせてください。僕はこの財政資産表をもって町民説明を行う。もう職員に対する説明は終わったということでもありますけれども、僕はこれ明確に反対したいと思いますけれども、広報を含めた。

この財政資産表は、事業見直し等については、無駄を省くという意味では、どんな時代でも当然のことであると思いますけども、改めて申し上げますけど、この財政試算表をもって、広報等による町民への周知というものは、ここは明確に反対したいと思います。

なぜなら、無駄に町民の不安を煽ることになるだろうというふうに思いますので、その辺に関して、町長お答えいただければ。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保建一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今の広報、町民周知の件でございますけれども、この試算表を広報に載せるつもりは、現在のところはありませんので、そういったかたちの町民周知ということではなくて、今後の町財政を考慮した予算編成に向けて取り組むという町の考え方を示すようなかたちのわかりやすい文面にはなりますけれども、そういう周知でいくというふうに考えていますので、こういう試算表を出したら、かえって混乱を招くことになるというふうに十分思いますので、あくまでも試算でしかないので、これで町民への周知っていうのは非常に厳しいものがあると思いますので、それはしませんので、ご理解いただきたいと思います。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） そして、この財政健全化の取り組み、財政始動による財政健全化の取り組みについても、より慎重に僕は行っていただきたいなというふうに思います。僕はとても危ういなと思って聞かせていただきました。ここ2、3日、本当にこの資料を見て悶々としてたんですよ。前から総務課長等からももちろん庁舎の件のお話の中でも、いろいろな話をさせていただきながら、僕はどうしてもこの財政始動のあり方というものに、もちろん財政が大事ですよ。もちろん大事です。そこは理解しますけれども。

町政の運営という部分がそこを中心になってしまうことに少し不安を感じるというんですか、やはり町民主導のものであっていただきたい。あくまでも行政というものは、町民の生活、そして幸せを支えるためにあるものですから、マイナスのほうからばかり考えるのではなくて、先ほど申し上げましたけど、何が必要かということをやまず大前提に考えるということ。

今、全庁的には八雲総合病院、ここの問題に全力で取り組むということと、ふるさと応援寄付金は、しっかりと先ほど財務課長がこの制度に対しての不安点を申し上げましたけれども、そうではなくて、かたちは変わっていくんだから、それにどのように対応していくかというのは、これが行政の大事な部分でしょ。これは諦めるべきじゃないですか。

偏つてると言いますけれども、北見市だって0から40億円まで積み上げたんですよ、ふるさと応援寄付金。だからそれは、いろんな工夫があってそのようなものになっているんでしょうから、そういうものの研究というものをぜひ進めていただきたいな。

これも議会はこれまでも十分申し上げてきたつもりですけれども、どうしても行政というものは、そういうものに対する対応という部分では、なかなか難しいものがあることは理解しますけれども、こういう時代だからこそ積極的にふるさと応援給付金、せっかくですから八雲町のふるさと応援寄付金は危機的な状況になっているわけですから、こういうときこそ、みんなで知恵を出し合って、いくらでもふるさと応援寄付金をいただけるような取り組みをしていただきたいなと、改めてお願い申し上げます。

○議長（大久保建一君） 答弁よろしいですね。

○議員（関口正博君） いいです。

○議長（大久保建一君） なければ、ちょっと私から。

相対的なことで申しますと、未来にね、ツケを残さないでやっていかなきゃならないでしょうし、町の財政運営とすれば、支出はより厳しく見ていかなきゃならない。より固く、固く見ていかなきゃならないっていうのは、もちろん理解します。

それで、我々にとってもその決算審議においては、無駄な事業はないのかとか、惰性でやってるものはないのかとか、ということを見直しを即していかなきゃならないのも1つの議会の立場だと思っています。

ただ、ちょっと心配するのは、今この国際状況の中で戦争が行われていて、原油が入ってこなくて、いろんなものが物価高騰している状態で、むしろどちらかというと国においても、自治体においても、財政出動しなきゃならない時期にあるんじゃないかなと、私自身はそう思ってるんですよ。国民生活がこの急激な物価高に向かって、ちょっとでもそこを緩和させなきゃならない部分っていうのもあるんじゃないかと思ってるんです。

ただ、それがあから、財政見直しをするなということではなくて、そのタイミングもある程度考えながらやっていただきたいという1つの要望ですので、そこら辺も考えてやっていただきたいと思いますので、お願いでございます。

他、なければ、これは報告済みとさせていただきたいと思いますけど、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君） では、ご苦労様でした。

【総務課職員・財務課職員退室】

○議長（大久保建一君） じゃあ5分休憩して、30分再開します。

<<休憩>>

<<再開>>

○議長（大久保建一君） それでは、皆さん揃いましたので再開いたします。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 今回の今の行政からの資料等について、議員の皆様がどう思ったか、僕はね、知りたいんですね。

僕はこれに関しては、明確なNOを突き付けたいんですよ。このベースがあるがゆえに、庁舎から何からというもののかたちというものが縛られていたという経緯ということで、これは後出しですよ、完全に。

しかも、財政のこの試算表なんていうものは、資産表を作るルールとしてこうなるのかどうか知りませんが、僕は無駄に不安を煽るものであるなというふうに思っておりますし、これをもとに、職員にも説明をもしや行ってしまったという事実に関して、僕は何様なんだろうなというふうに思ってるんですよ。

これどうですか、議員の皆様はどう思ってるんですか。ちょっと議長、取りまとめてくださいよ。

○議長（大久保建一君） 今のについてご意見ある方、挙手をお願いします。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保建一君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） ふるさと納税に頼らない財政をというのは、もう岩村町政の3期目からずっといろんな議員が予算委員会や決算委員会や一般質問の中でしてきて、それで、いや、大丈夫だ、固定資産税が入ってくるとか、所得税が入ってくるとか、なんとかこんとかということで、今まで言われ続けてきて、新しいものを文言って本当に必要かどうかは別としても立てていきたいというところが見られてるんですね。

ふるさと納税もダメになっているのは前々からわかってて、今こうやって急にまるでこの問題が起きたかのように大変なんだ、大変なんだっていうこのやり方には、私もなんで今こうやって騒ぐのって、前々から議会では話題に出てましたよねってことは思っています。

だから、今の関口さんの意見には、本当にノーというか、もっとやり方があるんじゃないのっていうのには賛成です。

○議長（大久保建一君） 他。

むしろ、この場で意見を述べなきゃならないのは、今まで予算とか決算により多く携わってきたベテラン議員さんが意見を述べなきゃならないと思いますので、そこら辺を踏まえてどう思っているか、発言できるかという。

○議員（横田喜世志君） はい。

○議長（大久保建一君） 横田議員。

○議員（横田喜世志君） 8年始まってね、この時期にもうこういうのを出してくる。それもその後の、例えば、さっき関口議員が指摘した部分も含めて、わからないものをゼロ扱いして計算しているというこんな試算表を出されても、今までそういう試算書を見てきた中でも、あまりにも突出した資産書だなんて、私は感じているんです。今までもう少しまともな資産表だったと思う。

それで、なおかつ、ここまで来る間に私議員経験の中でも何回かこういうのが提示されて、でも、その度ごとに先が伸びるんですよ。そこは、やっぱりやっていって努力の結果だと思うんですよ。

でも、この8年の始まった中で、努力もしない状態からこうやって計算して出すっていうか、見積もりするっていうのはね、ちょっと違うんじゃないかな。

だから、こういう試算表じゃなく、町長も言ってたように、大まかに縮小していかなきゃないんだよっていうアピールならまだしも。でも、それもこうやって書いてあるような文章にしちゃうと、ちょっと行き過ぎっていう感じは受けます。これがね、要は今年が例えば、秋口ぐらいまで予算要求が始まるちょっと前とか、その辺だとある程度8年度運営していて、このぐらいになりそうだっていうのは、分かるんです。

でも、この何も始まってないっていうふうに近いところからこれを出されるのはどうかなって。でも、締めるのが当然っていう態度としか見えない。

○議長（大久保建一君） いいですか。

○議員（横田喜世志君） はい。

○議長（大久保建一君） ほか、ありますか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 今、関口さん、横田さんお話ししたとおりの考え方です。厳選集中投資って言いながらさ、ついこの間、先月令和8年度の予算出してきて、その中に政策目標も曖昧だ、先行している自治体の政策効果も調べてないっていう出産祝い金なんかもね、●●と出していて何が厳

選集中投資だって思うんですよね。順番が違うと思うんですよね。先にこういうことを知らしめた中で、令和8年度の予算を出すっていうならわかるんですけど、この時期に出してきた。

そして、町民説明会が各論に入ってからって言って後回しにしていくっていうやり方がまず僕たちに譴責を投げているんだっていうふうには見えなくて、何がしかの意図を持って作られた財政資産表だなどというふうにはありませんので、これからは皆さんと一緒に、この町がどうあるべきかということを議会は議会として、ちゃんと議論できて進めていけるようにいけたらいいかなと。

●●の責任ある立場として、議会は議会としてやっていくという覚悟を皆さんにももってもらえたらと思います。

○議長（大久保建一君） ほか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（大久保建一君） 黒島議員。

○議員（黒島竹満君） この資産書の中身っていうのはね、とりあえず目標っていうか、そんな感じで出されてきてるのかなというふうに思うんだけど、当然予算を執行したり経営する上では、本当に今からこういうかたちをとるのが普通でなかろうとかな、というふうに思うんですよ。

川代町長の時もかなり厳しい財政改革している。その時と同じような状況は、去年あたりからもう見えているわけで、本来であれば、去年の予算を作る段階でやるべきものだったんでなかろうかな、というふうに思うんですよね。これはもう病院会計だって、そのとおりです。

ずーっと繰り出し金が増えて行ってるわけだから。当然今からやっていないと多分それこそ遅れちゃうんじゃないかなと思うんですよね。私は去年からそういうふうに思っている。だからこの内容については、まだはっきりどんなかたちで説明をきちっと受けているのかわかんないけれども、今からそういうかたちで動いていくというのは、当然のことだと思うんですよ。だから、やっぱりしっかり。

その川代町長のときも、町民から相当いろんな問題が出てましたけど、それと同じような状況になっていくのかなというふうに思っていますけれども。そこまでやらないとおそらく長万部よりも先に八雲のほう。長万部は相当きつくなってくるとは思ってたけれども、それ以上先に八雲のほうに来るんでなかろうかなというふうには。まあ、しっかりこの辺は内容を聞きながら、そして、しっかり精査をしていくべきであろうと思っています。

○議長（大久保建一君） 緊縮財政推進、賛成派っていうことですね。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（大久保建一君） ほか。

○議員（赤井睦美君） 質問でもいいですか。

○議長（大久保建一君） はい。赤井議員。

○議員（赤井睦美君） ごめんなさい。私はもちろん反対ではないんですけど、予算委員会の前じゃなくて、今出すその理由がわからない。そこだけ誰か。

○議員（横田喜世志君） そこなんだよ。

○議員（倉地清子君） 私です。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議長（大久保建一君） 黒島議員。

○議員（黒島竹満君） ただそれはさ、今だから出してこれるんだよ。それで本来であれば、去年の段階からヒアリングの段階からこの程度やってかなきゃなんないの、話を。それは前の町長なのさ。はっきり言って。

そして、変わった町長なんだから。そしたら、やっぱり今の時期からこういう状況になっていくというのは、当然のことだと思うよ。それはもう今わかったわけでねえ。前々から管理職がほとんど分かってるわけだから。こういう状況になるって。

だから、それは今だっていう話ではなくて、今だから出してこれるっていうことにしかならないと思うよ。流れからいくと。私はそう思いますけど。

○議員（三澤公雄君） それでいくとさ、解説みたいになっちゃうけど、前の町長は何とかすると。議会には指摘されようが、俺が何とかするっていう。その町長が代わって、行政出身の財務畑をずっと歩いてきた町長になったから。だけど、これを予算前に出すと予算案を人質に取られちゃうんで。

だから、そういう意味で今だから出せるっていうのは、今だから出す。それで、予算づくりの時に、前の町長はそういう話は聞いてたけども、なんとかするべということで、職員をなだめてたっていうところが想像できるのかなと。

だから、まさしく問題は全然変わらないのに、トップが変わったということでこの取り組み方をそうであれば、さっきと重なるんだけども、もう一方である議会がずっと継続で見ているのは、議会なんですから、この財政試算表に基づく予算の概要が出てきたときに、しっかり抗って、町民の暮らしに力点を置く立場で動けるのかは動けないのか、というところが試される場だというふうに必要なを感じてます。

○議長（大久保建一君） ちょっとフリーにしますね。

すみません。さっき、ベテランさんが話すべきと言ったんですけど、新人が話すなってことではないので、全然思うことがあったら言ってください。

○議員（三澤公雄君） そういう誤解を受けるよね。

○議員（関口正博君） ちょっとやり方としてね、本当にこれ、ちょっとあんまりだなというふうに、僕は思いますよ。

この文面も含めてね。実質公債比率と経常収支比率ですか。これを出してきてますけれども、皆さんよく目にする数字だろうけれども、じゃあどのくらいの八雲って数字になるのかなって分かります。全然平均的です。実質、公債費比率に関しても、まだまだそういう投資的なものというのは、まだ弾力性がありますよということです。

もちろんね、早めに手を打っていくという考え方っていうのは、もちろんそれはそうでしょうけれども、財布を引き締める側としては。それらがすべて行政指導で行われていることの僕は、すごく危機感を感じてるんですよ。

要は、役場職員がもちろん財政とかいろいろ見てるんでしょから、そこが主導になって様々な我々議会というのは、ちゃんと力を発揮して審査していかないと、あまりにもさっきも散々申し上げましたが、財政主導になりすぎていて硬直化してしまうという可能性のほうがちょっと高いかな、というふうに僕はみらさるんですよ。

もっとやっぱり柔軟性を持って、良いものは良い、悪いものは悪い、の判断をしていかないと、どうしても、これがフリートークだから、はっきり言わさしてもらいますけれども、萬谷町長は行

政出身の人だから、どうしてもそういうふうな寄りになってしまうのはしょうがないと思うんだけど、だからこそ、議会の役割って、僕が大事になってくると思うんですよ。

それで、明確にN0の時はN0って言うっておかないと、僕はとても反省してるんだけど、庁舎4,500平米での固定。これはあくまでも財政主導でこのようになってますからね。これから増やすのにも、もう今日も小委員会開いていろいろ資料を持ってきましたけれど、おかげをもってなかなかそれからじゃあプラスしてくださいなんて、行政側からもう言えないじゃないですか。引っ込みつかれるんだもん。そんなことが起きちゃうんですよ。もっと弾力性を持ったさまざまな計画というものを立てていかないと、これまでの行財政改革も八雲町ももちろんやってきたんでしょうけれども、これからまたどんどん時代が変わっていて、自治体経営力というものが僕は試されている。

だからこそ、ふるさと納税であるとか、そういうもので差が出てきているというふうに、僕は思うんで、それは個人的な意見ですけどね。僕は、今の行政主導のあり方に対しては、とても不安を覚えております。

議会もダメな時、ダメって言うとかないと。本当に。だってこれは、議場で議論されるべきことじゃんね。先ほど三澤さんもね、言ってたけれども。それで、ここでなあなあになってしまっただけで、議会でまた了解もらいましたよって進んでいってしまった時に、一番影響を受けるのはやっぱり町民ですから、町民生活ですから。その辺っていうものは我々は今一度ちょっと考えなきゃならないのかなというふうに思いますけど。

○議員（三澤公雄君） 一つその中で、議会の中で確認したいのがね。今日倉地委員なんか1つずつ項目を挙げながらさ、理解しましたって言葉使ってるけど、行政側がそれをね、納得したって勘違いされたら困るんだよね。特にね。

だけど、前まではそんな心配はなかった。なぜなら、全員協議会は報告を聞いて、要するにみんなが理解すれば報告聞きましたよと。だけど、一応悪いけど、大久保議長。これまで新庁舎の進め方でね、協議会場で理解したっていう範囲なのに、行政はね、納得してもらったってことで進められちゃったんだ。進ませちゃったんだ。あの時に説明しましたよね、なんていうのはね。後日僕らが意見言った時に平気で答弁するんだ。

だから、全協っていう場合は、そういう場じゃないよってことはね、議長には強くわかってもらいたいんだよね。これから、こういう場は多くなると思うんだ。こんな財政のことをみんな示されたことだから。そこをちょっと進め方も含めてやっていかないと、自由に活発にこうやって議論してもさ、結果を向こうの勘違いでとられちゃったら、決めるのは僕たちなんですよ。提案するのは彼らで。彼らが提案したことに対して、いろんな質問をして良好な関係っていうのは、その議会から出された考えを向こうがまた噛み砕いて再提案するとか、そういうキャッチボールがあるから、両輪だと言われるんですよ。

迂闊に意見も言えねえやっというような議会になっちゃったら、ちょっとここに至るまでの進め方で行政の捉え方が悪かったのか、こっちの進め方が誤解を与えてしまったのかね。全員協議会という場をちょっと違う受け取り方されてた結果があるので。

○議長（大久保健一君） その辺は私も進め方については、今後考えていきたいと思いますので。話は戻しますけれども、私もさっき言ったとおり、心配しているのは、なぜ今この時期に結構町民生活でみんなのお金に大変な時期に、緊縮財政を発表するこのタイミングなのかというのは、すごく心配しています。

行政はやっぱり税金なんで、元から今までの事業がより効果があるものかどうかを常に見直していくというのは、それは当たり前のことだとは思うんですよね。だけど、なんかちょっと聞いた感じでいけば、大蛇を振るってというようなイメージを受けるような表現だったので、ちょっとこのタイミングでやるのはどうなのかなっていう気はしてます。

なので、これからも各委員会ですべての事業に関しては継続するものなのか、それとも新規でやっていくものなのか、それぞれの報告は受けていくものだと思うので、これまでも真剣にやっていますが、これまで以上に一つ一つの、例えば、これから多分、廃止していく事業とかっていう報告も出てくるんだと思うんですよ。

そういうときに、議員側のほうが、いや、これは絶対続けるべきだっていう、関口君の言葉を借りるなら、もってという場面も出てくるのかもしれないだろうし、それは、一つ一つ意見を強く言っていかなきゃならない時代なのかなと思ってます。

ただ、今、議会としてまず決めなきゃならないのは、行政側がこの緊縮財政に向かっていきますってことを広報で町民に周知すると、それを認めるべきなのかどうなのかと。そこは皆さんにちょっとお伺いしておきたい。どうでしょう。今ここで何も意見を言わなければ、行政は町民に対して、こうこうこういう大変な時代なんで、よりサービスを掲げていきますというような、多分周知をしていくんだと思うんですよ。

それを議会からは何も申しないでおくのか、各論になった時だけに審査するのか、それとも、今ここ物を申して、いや、それはやらないほうがいいんじゃないかっていうことを言っていくべきなのか、そこら辺を皆さんにお諮りした老いと思います。

○議員（黒島竹満君） 私はやるべきだと思います。今からやらないと。

○議長（大久保建一君） 広報で周知したほうがいい。

○議員（三澤公雄君） 広報だろうが何だろうがね、方針転換というか、町長が変わっただけじゃなくて、中身がそういうふうになるってことは周知するべきだけれども、文章でもっと違う表現でっていうのは、もちろん、こんなものをやってぶつけるとは思わないんだけど、言葉で言っても受け取り方が違う人たちがいるときに、さらに追加説明をするっていうことができるのは、僕は対面だと思うんだよね。

○議員（安藤辰行君） みんな来るわけでないしょ。

○議員（三澤公雄君） だから、みんなわけでねえけど、でも来た人には説明を尽くしたっていうことでない。

○議員（安藤辰行君） それはわかる。

○議員（三澤公雄君） 受け取り方を間違われたままなのが。

○議員（黒島竹満君） やり方とすれば、ちゃんと報告してもらいながら、納得できるようなかたちでやってほしいなという。

○議員（三澤公雄君） どっちかじゃなくて、文書でやる方法もあるけれども、文書だけでいいのかということで僕は先ほど発言させてもらったんだけどね。文書でやるなら、そういったイレギュラーが発生するということを覚悟してやらないと。

○議員（黒島竹満君） だって、いずれにしてもどっかでやらなきゃいけないんだ。財政的に。

○議員（三澤公雄君） これは考え方が示された段階で、やっぱり町民にも示すタイミングは変にずらすことよりも、今のほうが僕はふさわしいと思うけど。

だけど、広報だけでいいのかなというところは心配しています。

○議員（安藤辰行君） 広報のほう全員にある程度の人方に周知できるんでねえかなと俺は思うんだけど。

○議員（黒島竹満君） もし、あれだったらさ、会派で打ち合わせして、会派で全体の。

○議長（大久保建一君） それぞれの考えをまとめてもらって。

○議員（黒島竹満君） まとめてもらったほうがいい。今こうやってバラバラ時間かけて話したって。

○議員（関口正博君） 議長。

（何か言う声あり）

○議長（大久保建一君） ただ、5月広報ってもう。

○議会事務局長（野口義人君） もう多分原稿は締め切ってます。

○議長（大久保建一君） 締め切ってるよね。

○議員（安藤辰行君） したら、6月だ。

○議長（大久保建一君） もう5月広報で作ってるかもわかんねえじゃん。

○議員（関口正博君） 最悪じゃねえ。というのはね。

○議員（黒島竹満君） 会派で打ち合わせして、はやく出してもらわないと。

○議長（大久保建一君） いや、だけど、もし議会広報もそうだから、今回の5月広報にその内容が載っているとしたら、原稿はもう締め切ってるんだよ。

○議員（関口正博君） 議長、俺が言いたいのは、この財政健全化のベースがこの資産表なら、もうこつたらもの破綻してますよってことなの。

こんな財政資産表をもとに、町の将来を決められるのであれば、こんなものを町民に示すわけになんていかないって。

○議長（大久保建一君） いや、その試算表自体は示さないけど。

○議員（関口正博君） いやだけど、引き締めによる考え方のベースがここにあるとすれば、俺はこれ、どうしてもこれまでのいろいろな経緯の後付けにしか俺見えないわけですよ。こんなもんは。それで、前アガシの数字だよ、こんなんは。はっきり言えば、あの場では俺言わなかったけども。

○議員（斎藤 實君） 関口さん怒るのもわかるんですよ。僕も議員長くやっておりまして、幾度となく、この財政資産のひな形というのはあれば、だいたい同じです。それじゃあ、このとおりいくかっていったら絶対行かないんですよ。行かないように財政課のほうで、予算決算を見ながら、調整しながらやっていくから、それはそれでこれが現状ですよというだけの話で、この通りはいかないんですよ。

だって、今までも3年後になったらパンクしますよって言って、パンクした試しないんですから。それで、ちゃんとそれは、財政課でコントロールしながらやってるから、その点は大丈夫なんだと。ただ、この現状を踏まえてというところは、確かに今の八雲町の現状なんですよ。

ただ、これね、僕ちょっと考え方変えてね、これはあれか。庁舎の関係と結びついて、例えば、いくらかでも安くしたい、4,500平米でやりたいと。

○議員（関口正博君） それもあると思うよ。

○議員（斎藤 實君） それを裏取って、こういうようなものを作ったのかなと。実はね、いやいや、（聞き取り不能）に議長言えって言ったからさ。そういう部分もあるのかなっていう、そういうような捉え方したもんだからさ。

○議長（大久保建一君） まず、5月広報にはこれ載らないです。

多分、6月広報以降に載ってくるものだと思いますので、話し合う時間はあるみたいなので、まず、財政健全化に関してって言えば、こうやって問題提起をされましたけれども、議会にとっても、町政にとっても永遠のテーマだとは思いますが、ここらへんはじっくり各会派ちょっと話し合っていたきたいと思います。

○議員（関口正博君） でも、これは俺はありえないと思う。今回のこの資料というのはあり得ないと思う。

○議員（斎藤 實君） これかい。

○議員（関口正博君） うん。

○議員（斎藤 實君） これはね、いつの場面でも大体こういう（聞き取り不能）。

○議長（大久保建一君） 毎年、毎年、何年後かには基金を食い潰すというのは、毎年出てたよ。

○議員（関口正博君） いやいや。

○議長（大久保建一君） 岩村町長なんかは、前の赤字になる、赤字になるって言ってるけど、何もなんないべやっていうのは、岩村町長の口癖みたいな。

○議員（関口正博君） いや、試算表もそうなんだけど、それに伴って、この取り組みの2枚に関しても、俺はもうめちゃくちゃだなというふうに思ってます。

○議員（黒島竹満君） そのへんも会派でしっかり話し合いして。

○議長（大久保建一君） それであればね。

○議員（黒島竹満君） 出してきたのも。

○議長（大久保建一君） もうちょっと現実を踏まえたものを出してくれとかなんとか、各会派で考え方があってしょうから、そこら辺は話し合って、また話し合う場を設けますけれども、まず、会派で考え方をまとめていたきたいと思います。

まあ、会話の中でもまとまるかどうかは分からないけど。

○議員（倉地清子君） いつまで大丈夫ですか。

○議長（大久保建一君） 次こういう話をするのであれば。

○議会事務局（野口義人君） 連休明けでなければ、多分6月号にもし掲載するとなれば、悪いけど連休明けに設定しなければならないと思います。

○議長（大久保建一君） 連休明けに設定いたしますので。このことについては、示させていただきます。

その他、持ち合わせの方、事務局ありますか。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 一点、すみません。

ちょっと全くお話し変わってしまいます。前回の文厚で、学校給食の試食を皆さんで行ってほしいねというお話が出てございまして、文厚だけじゃなくて、総務も含めて全体でぜひ良ければ、そういうタイミングをいただけないかなというお話ですが、日程的には、5月21日木曜日に文厚の予定にならないかって考えていまして、そのくらいでお昼を部屋はこちらでということで、調整を図ってまいりたいので、ぜひよろしければ皆様がよければ。

(何か言う声あり)

○議会事務局庶務係長(千代貴大君) (聞き取り不能) 学校ではちょっと難しいということで、ぜひこちらでというふうに言われたもので、そのように設定して参りたいなと思ってますので、追って詳細は周知させていただきますので。

(「はい」 という声あり)

○議長(大久保建一君) 他。

(何か言う声あり)

○議長(大久保建一君) 他にございますでしょうか。

(「なし」 という声あり)

○議長(大久保建一君) なければ、ちょっと昨日の報告だけ。

昨日、7人のメンバーで木古内の議員のなり手講座に行ってみりました。それで、議会の基本的なことを、昨日は1夜目としてやったんですけど、八雲と同じく第3回シリーズでやるそうなので、次は5月22日にやる。ぜひ、八雲さんもまた来てくださいと言ってますけれども、行くかどうかは別として、行ける方は行きたいと思いますんで、お願いします。以上です。

それでは、あと何もなければ、第10回全員協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。

〔閉会 午前10時57分〕